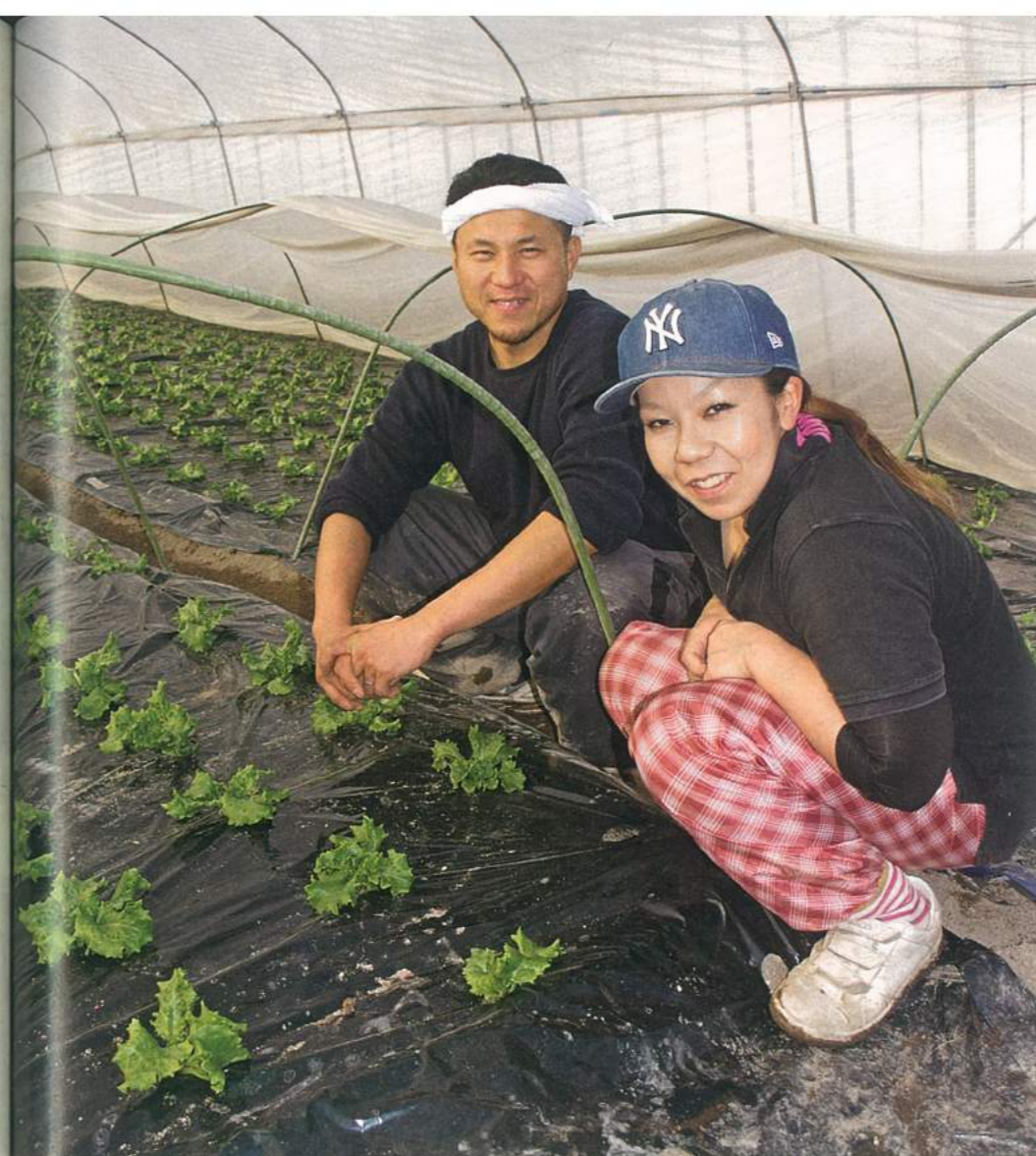


自衛官の制服を作業着に替えて、 仕事も趣味も農家をエンジョイ

宮川正太郎さん、望さん（むかわ町）



元自衛官の宮川正太郎さんと、元介護士の望さん。農作業も趣味もエンジョイする元気な夫婦だ

研修農場の一期生として、 100坪ハウス8棟で就農

むかわ町と鶴川農協などが設立した「むかわ町地域担い手育成センター」の第一期生として、就農から5回目のシーズンを迎えた宮川正太郎さん（37歳）は、札幌出身の元海上自衛官。札幌の高校を卒業後、アメリカの短大で学び、入隊後は横須賀や呉基地で訓練に励んでいたとい



春レタスの定植作業。マルチに指で穴を開け、小さな苗を植えていく

う異色の経歴の持ち主だ。「学生のころは特にやりたいこともなく、安定した職業なので、公務員になっただけ、ある時、農業生産法人で働く若い人たちの姿をテレビで見、「これだ！」と思ったんです。今は農業が楽しくて仕方ありませんよ」と笑顔を見せる。結婚前は介護士として、日高町富川の病院や福祉施設で働いていた望さん（29歳）も、「農業は初めてだし、最初はきついか、大変というイメージだったけど、やってみると、結構楽しいじゃん！って感じですよ」と屈託がない。

日高管内に祖父の実家があり、この方面での就農を考えた正太郎さんは、旧・北海道農業担い手育成センター（現・公財）北海道農業公社）でむかわ町を紹介され、除隊後の平成20年4月から実習生として研修を開始。中国からの実習生とともに挑んだ初めての農作業は、肉体的にも精神的にも辛い経験だったそうだが、正太郎さんの熱心な働きぶりや経歴は、徐々に町内の農家たちの耳に入るようになり、同年代の農業後継者との交流を深めていった。

22年には設立されたばかりのむかわ町地域担い手育成センターの研修農場で、独立に向けてトマトとレタスの輪作の実践を積んだ正太郎さんは、

農協の青年部にも籍を置き、農業そのものの面白さに目覚めていったそう。だ。「緑肥を植えている畑があるので、ここでやりなさい」と、就農地を提示してくれた農家から言われたのも、正太郎さんの前向きな姿勢が目にとまったためようだ。

は、母親を労働力の一人にして、国や町からの補助金を申請し、自己資金と合わせて、ハウスや軽トラックなどの資材を整えた。1・13haの借地に100坪ハウス8棟を建て、営農を開始したのは23年11月1日。実はその半年ほど前に、友人の紹介で出会った望さんと入籍した日でもあるそう。

春レタスとトマトを輪作。 当面の目標はマイホーム

むかわ町豊城にある正太郎さんのビニールハウスを、取材に訪れたのは1月下旬。鶴川農協蔬菜園芸振興会レタス部会が中心となって、栽培を進める春レタスの定植の日で、1cmほどに育った苗を、マルチの穴に素早く植える作業を夫婦二人で行っていた。冬期間温暖な気候で育てたむかわ町の春レタスは、大玉で、食味が良いことで知られ、無加温ハウスで育てることもこだわりがある。正太郎さんは、「レタス作りは定植日の気温と、その後の温度管理が一番重要。定植したら、布団（被覆資材）をかけて、しっかりとした外葉が出るよう育ててあげらんとす」と話し、農協の出荷基準の600gに育つよう、管理には細心の注意を払っている。

望さんは子育てに、農作業の手伝いと忙しいが、「遊びたいから、仕事も頑張る」と笑う。2人が出会ったのもスノーボードに出掛けた時だったそう、正太郎さんは時間を見つけてはサーフィンや音楽で、趣味の時間も楽しんでいる。

そんな正太郎さんに今後の目標や夢を尋ねると、「雲をつかむような『未来』の話をするんじゃなく、確実に達成できる『将来』の目標を達成するために、きちんと準備をしていきたい。僕たちにあるのは『将来』で、『未来』ではないという言葉が気に入っています」。

近い将来の目標は、マイホームを建てること。そのためには毎年、確実にレタスとトマトの収量を上げるための管理をすること、と話す正太郎さんらしい言葉だと思っただけ、将来と未来の話は、ある講演会に行っていた時、お笑い芸人のゴルフ松本が言っていたことで、僕が言ったことじゃないんですけど」と大笑い。この明るさは望さんも同様で、「むかわ町のレタスは葉の厚みがあって、パリパリとした歯ごたえが本場においていいんですよ」とにっこり。新米農家の夫婦が作るレタスを、食べてみたくなった。



春レタスの定植後は、素早く被覆材をかけて、保温に努める



12月中旬に定植したレタスの生育状況（約1カ月後）



周りは雪で覆われたむかわ町豊城に建つ、宮川さんのビニールハウス



春レタスの苗は農協の共同育苗ハウスで育てたものを利用

3月から4月にかけて、レタスの収穫が終わると、トマトの栽培が始まる。ほぼ1年を通して、休みのない農作業に思えるが、「規律の厳しかった自衛隊に比べると、自分で時間が組み立てられるので、結構、自由な時間もつくれますよ」と正太郎さん。

結婚後、すぐに授かった長女の明瑠ちゃんは、3月で3歳になり、

（フリーライター 梅村敦子）